

植物遺伝資源探索導入調査報告書

昭和 62 年度

昭和 63 年 9 月

農業生物資源研究所編

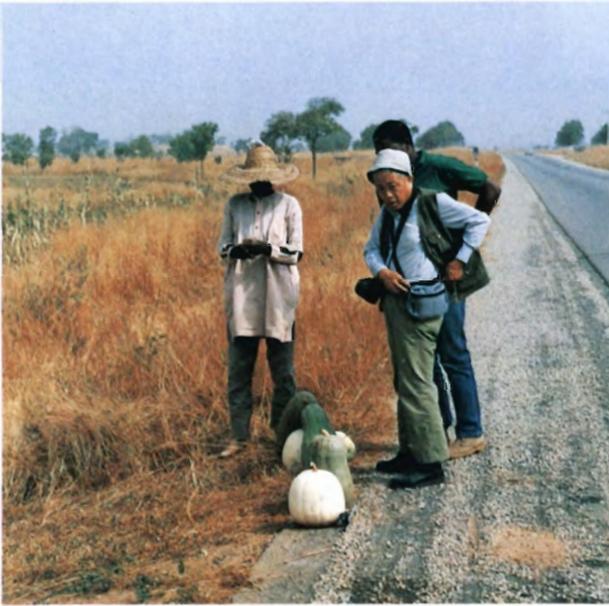
生物研資料63-(2)
昭和 63 年 9 月

とりまとめ 生物研 遺伝資源第一部
(連絡先) 植物探索導入研究チーム
TEL 02975-6-7458

植物探索収集プロフィール

国外収集

1. 野菜類 (ナイジェリア, 1987, 71頁)



ウリ・カボチャの在来品種の収集 (ナイジェリア東部, カメルーン国境付近, 標高520m)



ウリ科の在来栽培種 (*Telfairia occidentalis*), 大型の種子を食用・油用, また果肉・若芽を食用にする。
(マクルデイ, 標高90m)

2. 豆類 (東ネパール, 1987, 87頁)



農家保存種子の分岐を受ける (ツルアズキ, ネパール東部, ダンクータ)



庭先での聞き取り調査と種子の収集
(ネパール東部, ダンクータ)

3. 麦類 (モロッコ・シリア・アラブ, 1987, 108頁)



脱穀・調整場での標本の収集
(ティフレ付近, モロッコ)



手刈によるマカロニ小麦の収穫

4. カンキツ・ビワ類 (地中海地域, 1987, 131頁)



ビワ遺伝資源の情報収集 (イスラエル北部ジクロンヤコフ地区)

国内収集

1. 豆・雑穀類（群馬・新潟・福島県，生物研・植探研，1987，1頁）



農家庭先での遺伝資源情報収集
（群馬県南西部，万場町）



アワ在来種の脱穀風景（福島県南会津地方，下郷町）



農家保存のダイズ在来品種（新潟県中越地方，山古志村）



軒先で縄干し中のダイズ種子
（新潟県中越地方，山古志村）

2. キク野生種 (中国・四国地方, 野菜茶試・切り花花き1研, 20頁)



自生のノジギク (高知県足摺岬)

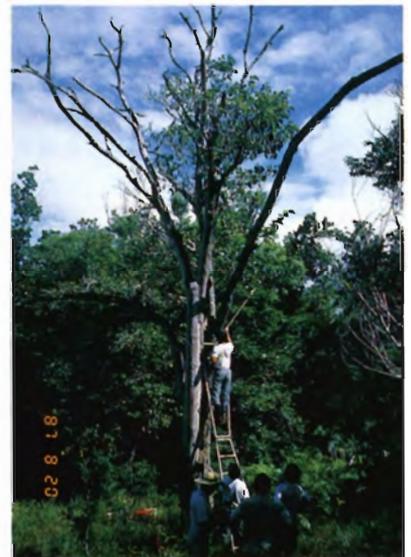


岩場に自生するシオギク (高知県室戸岬)

3. オガサワラグワ (小笠原諸島, 蚕試, 栽培部, 42頁)



オガサワラグワの調査および収集 (小笠原母島, 営農研究センター)



(小笠原母島, 石門山針ノ岩付近)

ま え が き

各地域の環境条件に適応して様々な作物品種が分化し、生産の安定性をもたらす遺伝的多様性が長い年月をかけて生み出されてきた。しかし、このような有用な遺伝子を備えた在来種が、近年になって急速に消失していると言われている。こうした状況に対応して遺伝資源の収集、管理、さらに研究の充実が、世界各地で図られつつある。

農業生物資源研究所では、昨年度の報告書でお知らせしたセンターバンク（生物遺伝資源管理施設）が完成し、今年4月14日には多数の方々の出席のもとに盛大な開所式が開催された。この式典では、遺伝資源の収集評価・保存管理そして利用の重要性が強調され、センターバンクの国内外に対する今後の中心的役割が大きく期待されたところである。また、IBPGR（国際植物遺伝資源理事会）が主催し、農林水産省、外務省の協力・後援のもとに昨年11月10日から13日の4日間筑波において、東アジア植物遺伝資源研究集会が開催された。この研究集会には、東南アジアおよび周辺の7カ国から35名、国内から約100名が参加し、植物遺伝資源に関わる38課題の報告がなされるとともに、定期的な情報交換、遺伝資源の収集・保存の強化、収集範囲の拡大や優先順位の見直し、研修活動の強化等が勧告、採決された。

このように遺伝資源とそれをめぐる活動に対する関心が高まる中、今年度も、国内・国外において多くの探索収集が実施され、その成果と調査結果が本報告書に掲載されている。国内の探索収集では、豆・雑穀類・花卉、茶、牧草および桑を対象とした5つの調査報告書が寄せられた。豆・雑穀類の収集は、群馬、新潟、福島 の3県で実施され、多数の在来種の収集と併せて貴重な遺伝資源が今なお山間部には残されていることが明らかにされた。また、広域的に調査された牧草の報告、および地域性を重視して実施された花卉、茶、桑の報告でも、現地での協力を受けて貴重な成果を上げることができた。

国外への探索収集では、ナイジェリア（野菜類）、東ネパール（豆類）、モロッコ・シリア・アラブ共和国（麦類）、地中海地域（カンキツ、ビワ）へ調査隊が派遣された。報告書にも述べられているように国外での探索収集は、現地研究機関の協力および共同研究体制のもとに進められたもので、野菜、豆類を始めとして貴重な遺伝資源の収集成果が上げられた。また、生物研の遺伝資源の収集管理・研究を紹介するビデオの完成やナイジェリア探索収集隊の誌上紹介なども、今年度の特徴的な点で、我々の活動を広く一般に知らせる機会となっている。

今年度から、本報告書では遺伝資源の収集と受入項目を区別して、両項目における収集リストの重複を除くことにした。これに伴って、収集項目のみを現地記録表として掲載し、国内・国外からの受入項目については、各作物毎にその点数を表にして記載することに留めた。また、巻頭の収集プロフィールをカラー写真で示し、現地での収集状況をさらに見やすくした。

最後に、国内・国外で探索収集に参加され、本報告書に原稿と収集リストを寄せられた方々、および導入・受入記録のアンケート調査に御協力いただいた関係研究室の方々に深く感謝する次第である。この植物遺伝資源探索導入調査報告書が、多くの関係者に研究資料として広く有効に活用されることを心より希望する。

昭和63年 8 月

遺伝資源第一部長

石 家 達 爾

植物遺伝資源探索導入報告書（昭和62年度）

目 次

	ページ
まえがき	遺伝資源第一部 石家達爾 i
I. 国内収集探索報告	
1. 群馬県南西部，新潟県中越地方および福島県南会津地方における 豆類および雑穀類の収集，生物研，1987年……………	1
生物研・遺伝資源第一部・ 植物探索研	岡 三 徳，長 峰 司 河 瀬 真 琴，江 川 宜 伸 勝 田 真 澄，中川原 捷 洋 山 下 道 弘（京都府農総研） 池 主 俊 昭（新潟県農試） 佐々木 行 雄（新潟県農試） 飯 塚 清（館林市農協）
2. 中国，四国地方のキク野生種等収集，野菜茶試，1987年……………	20
野菜茶試・花き部・切り花花き1研	天 野 正 之
3. 茶宇治在来の収集，野菜茶試，1987年……………	28
野菜茶試・茶栽培部・育種法研	鳥屋尾 忠 之
4. 本州におけるペレニアルライグラスの収集，草地試，1987年……………	33
草地試・育種部・育種素材研	中 嶋 紘 一
5. オガサワラグワの収集，蚕試，1987年……………	42
蚕試・栽培部・桑育種1研	原 島 典 雄
桑育種法研	小 林 昭 三
II. 国内収集における現地記録表	
農研センター・作1部・甘しょ育種研……………	46
果樹試・興津支場・育種2研……………	52
	担当研究室

北農試・草地開発二部・牧草2研	52
東北農試・栽培二部・作物4研	52
九州農試・草地部・牧草1研	54
九州農試・草地部・牧草2研	66
蚕試・栽培部・桑育種2研	68

Ⅲ. 国外探索収集報告

1. ナイジェリア国における野菜類遺伝資源の調査, 1987年	71
野菜茶試・野菜育種部・育種4研	由比進
全農連・営農開発部	芦沢正和
2. 豆類遺伝資源の探索, 東ネパール, 1987年	87
長野県中信農試	宮崎尚時
北海道立中央農試	足立大山
3. 麦類遺伝資源の海外探索導入調査, モロッコ王国・シリア・アラブ共和国, 1987年	108
長野県農総試	桑原達雄
福岡県農総試	古庄雅彦
農研センター・作物二部・小麦育種研	宮川三郎
4. 地中海地域におけるカンキツ・ビワ遺伝資源調査, 1987年	131
長崎県果樹試	吉田俊雄
愛媛県青果農協連	佐々木文義

Ⅳ. 国内・国外遺伝資源の導入受入点数

Ⅴ. 国外遺伝資源探索収集チームの派遣実績

I. 国内探索収集報告
(昭和 62 年度)

**Ⅱ. 国内収集における現地記録表
(昭和 62 年度)**

Ⅲ. 国外遺伝資源の探索導入報告
(昭和 62 年度)

**Ⅳ. 国内・国外遺伝資源の導入受入点数
(昭和62年度)**

**V. 国外遺伝資源探索収集チームの派遣実績
(昭和62年度)**

植物遺伝資源探索導入調査報告書 昭和62年度

昭和63年9月20日 印刷

昭和63年9月30日 発行

茨城県つくば市観音台2-1-2

編集兼
発行者 農林水産省農業生物資源研究所

印刷所 茨城県下館市中館186

朝日印刷株式会社

